

よだかの星^{ほし}

宮沢賢治 [原作]

NPO多言語多読 [監修]

Taishukan
Japanese
Readers

Level

3



TAISHUKAN

〈にほんご多読ボックス〉の読み方

辞書を使わないで、すらすら読めるレベルの本を楽しくたくさん読むこと、これが「多読」です。多読は日本語の勉強にとっても大切です。「にほんご多読ボックス」には、昔話や小説、伝記、ノンフィクションなどいろいろな話が入っています。次のルールを守って楽しみながらどんどん読みましょう。

● 多読のための4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む
- 2 辞書を引かないで読む
- 3 わからないところは、とばして読む
- 4 進まなくなったら、他の本を読む

にほんご^{たどく}多読ボックス
Taishukan Japanese Readers

Level

3

よだかの^{ほし}星

みやざわけん じ げんさく
宮沢賢治 [原作]

あかほし え り かんやく
赤星絵里 [簡約]

た げん ご たどく かんしゅう
NPO多言語多読 [監修]

やま だ はる み さし え
山田春美 [挿絵]

大修館書店

EBSCOhost®



よだかは、とても醜い鳥です。顔は茶色で、口は大きくて耳まで続いています。足は弱くてあまり歩くことができません。

他の鳥は、よだかを見ると、嫌な気持ちになっと思っています。みんな、よだかよりは自分の方がきれいだと思います。みんな、よだかに会うと、とても嫌そうに他の方を見ます。話し好きの鳥たちは、いつも、よだかの前で悪口を言います。

「よだかが、また出てきたね。見てよ。あれでも鳥なの？ 鳥だと思いたくないね」

「ああ。口がとても大きくて変だ」
いつも、こうです。

よだかは、漢字で「夜鷹」と書きます。名前に

「鷹」が入っていますが、たかではありません。

「鷹」は、大きくて強い鳥です。小さな鳥たちは、

その名前を聞いただけで怖くなります。そして、す

ぐ逃げます。

よだかは、美しいかわせみや、きれいなはちすず

めの兄弟でした。かわせみは魚を食べ、はちすず

めは花の甘い蜜を吸います。でも、よだかは、小さな虫を食べるのです。

名前の中に「鷹」という字があるのは、よだかの羽がとても強くて、飛ぶと、たかのよ

うだからです。そして、声もたかのようにだからです。

たかは、よだかという名前が嫌でした。だから、よだかの顔を見ると、「早く名前を変

えろ。名前を変えろ」と言うのでした。



よだかは、美しいかわせみや、きれいな
はちすずめの兄弟でした。

ある夕方、たかが、よだかの巢（鳥の家）へ来ました。

「おい。よだか、いるか。おまえは、まだ名前を変えないのか。俺の方が、おまえより強いんだぞ。俺は、青い空を遠くまで飛んでいく。でも、おまえは天気の良い暗い日か、夜

にしか出てこない。俺のくちばしや爪を見ろ。
おまえのくちばしや爪とは違うだろう」

「たかさん、名前を変えることはできません。

私の名前は、私が決めたものではありません。

神様がくれたのです」

「いや、違う。俺の名前は神様からもらった

ものだが、おまえの名前は、俺と夜から借り

ているんだ。さあ、返せ」

「たかさん。それはできません」



たかは、よだかという名前が嫌でした。



殺してください」

かどうか聞くぞ。そのとき新しい名前を知らない鳥がいたら、おまえを殺すぞ」

「ああ、どうしてもできません。そんなことをするなら、死んだ方がいいです。今すぐに

「いや、できる。俺が、いい名前を教えてやろう。市蔵だ。いい名前だろう。名前を変えるためには、みんなに新しい名前を知らせなくてはならない。だから、市蔵という名前を紙に書いて首に掛けろ。そして、今日から市蔵になりますと、みんなのところに行つて言え」

「そんな事は、絶対にできません」

「いや、できる。もし、あさつての朝までに、おまえがそうしなかったら、すぐに、おまえを殺すぞ。忘れるな。

俺は、あさつての朝早く、みんなに会つておまえが来た

「あとで、よく考えろ。市蔵は悪い名前ではないぞ」

たかは、大きな羽で自分の巣へ飛んで帰っていききました。

よだかは静かに考えました。

——どうしてみんなは僕

が嫌いなんだろう。口が

大きくて、顔が醜いから

だろうか。でも、僕は今

まで何も悪いことをして

いない。めじろの赤ちゃん

が木の上の巣から落ち

たときは、助けて巣に連

れていつてあげた。そう



したら、めじろのお母^{かあ}さんは、赤^{あか}ちゃんを僕^{ぼく}から急^{いそ}いで取^とった。どろぼうから取^とり返^{かえ}すように。「ありがとう」も言^いわないで。そして、僕^{ぼく}を見^みて笑^{わら}った。ああ、今^{こん}度は、市^{いち}蔵^{ぞう}という名^な前^{まえ}を書^かいた紙^{かみ}を首^{くび}に掛^かけなければならぬ。嫌^{いや}なことばかりだなあ――

周^{まわ}りは、少^{すこ}し暗^{くら}くなっていました。空^{そら}いっぱいに雲^{くも}があります。よだかは巢^すから飛^とび出^だしました。そして、静^{しず}かに雲^{くも}のすぐ下^{した}を飛^とび回^{まわ}りました。それから、急^{きゆう}に口^{くち}を大^{おお}きく開^あけました。小^{ちい}さな虫^{むし}がたくさん口^{くち}の中^{なか}に入^{はい}ってききました。体^{からだ}が下^{した}につきそうになると、よだかは、また上^{うえ}の方に飛^とびました。

よだかが力^{ちから}強^{つよ}く飛^とぶ時^{とき}は、空^{そら}を二^{ふた}つに切^きるようです。今^{こん}度は、大^{おお}きな虫^{むし}がよだかの口^{くち}の中^{なか}に入^{はい}りましたが、虫^{むし}は動^{うご}き続^{つづ}けました。よだかは、すぐ^{さぐ}にそれを飲^のみ込^こみましたが、嫌^{いや}な気^き持^もちになりました。

雲^{くも}は黒^{くろ}くなってきました。よだかは苦^{くる}しい気^き持^もちになりながら、また空^{そら}へ上^{のぼ}りました。すると、また大^{おお}きな虫^{むし}が、よだかの口^{くち}の中^{なか}に入^{はい}りました。そして口^{くち}の中^{なか}で動^{うご}き回^{まわ}りました。

よだかは、それも飲み込んでしまいました、その時、急に何か変わったような気持ちになりました。よだかは、大きな声で泣き始めました。泣きながら、ぐるぐるぐるぐると空を飛び回りました。

——ああ、たくさんの虫が、毎夜、僕に殺される。そして、今度は僕がたかに殺される。それが、こんなに悲しくて苦しいのだ。ああ、苦しい、苦しい。僕はもう虫を食べない。そして死

んでしまおう。たかが来る前に、遠くの遠くの空のあっち側に行ってしまう——

よだかは、弟のかわせみのところに飛んでいきました。かわせみは、よだかを見て言いました。



「兄さん、こんばんは。何か急な用事ですか」

「いや、僕は今度遠いところへ行くから、その前にちよつとだけおまえに会いに来たよ」

「兄さん、行かないでください。はちすずめも遠くに住んでいますから、僕は一人になつてしまいます」

「でも、しかたがないのだ。もう、何も言わないでくれ。そして、今日から、魚は食べる分だけとりなさい。おなががすいていないのに、とつてはいけないよ。わかったね。さよなら」

「兄さん。どうしたんですか。ちよつと待つてください」

「いや、もう行くよ。はちすずめにも、よろしく。さよなら。もう会わないよ。さよなら」

よだかは、泣きながら自分の巣へ帰つてきました。短い夏の夜は、もう終わるところです。よだかは高い声で「キシキシキシッ」と鳴きました。そして、巣の中と体を



きれいにして、巣から飛び出しました。

その時、お日様が東から出てきました。日の光が強いので、よだかは目がよく見えなくなりましたが、そちらの方へ飛んでいきました。

「お日様、お日様。私をあなたのところへ連れていってください。焼かれて死んでもいいのです。私のような醜い体でも、焼かれる時には、小さな光を出すでしょう。私を連れていってください」

「おまえは、よだかだな。そうか、とても苦しうだな。でも、おまえは昼の鳥ではないのだから、夜、空を飛んで、星に同じことを言いなさい」

よだかは、急に周りが見えなくなつて草の上に落ちてしまいました。夢を見ているようでした。体が赤や黄色の星の間を上つていたり、どこまでも風に飛ばされたりしたようでした。

つめ
冷たい物が顔に

お
落ちました。よだかは

め
目を開けました。草の葉

みず
から水が落ちたのでした。

よる
夜になっていました。空は青くて

くら
暗く、星がたくさん光っていました。

そら
よだかは空へ飛んでいきました。そして、

にし
西の空の美しい星の方に飛びながら、大きな声で言いました。



「お星様、西の青くて白いお星様。私をあなたのところへ連れて行ってください。焼かれて死んでもいいのです」

でも、星は、歌を歌っていて、よだかの言うことを聞いてくれませんでした。よだかは、悲しい気持ちで下へ落ちながら、それでもがんばって、もう一度飛び上がりました。それから、南の星の方へ飛びながら、大きな声で言いました。

「お星様、南の青いお星様。私をあなたのところへ連れて行ってください。焼かれて死んでもいいのです」

南の星は、青や紫や黄色に美しく色を変えながら言いました。

「馬鹿なことを言うな。おまえは鳥じゃないか。何年かかっても、おまえが俺のところへ来ることはできないよ」

よだかは、悲しくなって、下に落ちていきましたが、もう一度力を出して飛び上がりました。それから、今度は北の星の方へ飛びながら、大きな声で言いました。

「北きたの青あおいお星ほし様さま。私わたしをあなたのところへ連れていってください」

その星ほしは、静しずかに言いいました。

「そんな馬鹿ばかなことを言いうな。冷つめたい海うみの中なかに飛とび込こんで、よく考かんえろ」

よだかは、もっと悲かなしくなつて、ゆっくり落おちていきましたが、もう一度力いちどちからを出だして飛とび上あがりました。そして、東ひがしから出でたばかりの星ほしに大おおきな声こえで言いいました。

「東ひがしの白しろいお星ほし様さま。私わたしをあなたのところへ連つれていってください。焼やかれて死しんでもいいのです」

その星ほしは言いいました。

「いや、それは難むずかしい。ここに来くるには、強つよくて立派りっぱでなければならぬ。それに、たくさんお金かねを持もっていなければならぬんだ」

よだかは、もう力ちからがなくなつて、石いしのように下したへ落おちていきました。しかし、よだかの弱よわい足あしが下したにつく前まえに、よだかは急きゅうに飛とび上あがりました。それから、「キシキシキシ

シッ」と、とても高い声で鳴きました。その声は、たかのようにでした。眠っていた他の鳥たちは、みんな起きてしまいました。そして、たかが来たと思つて、心配そうに星空を見上げました。

よだかは、どこまでもどこまでも空高く上つていきました。寒くて体が冷たくなりました。とても高いところまで来たので、羽をたくさん動かさなければなりませんでした。

けれども、星の大きさは少しも変わりません。だんだん苦しくなります。空は寒くて冷たくて、よだかの羽は動かなくなつてしまいました。そして、涙でいっぱいの中で、もう一度空を見ました。これが、よだかの最期でした。

よだかは、自分で何をしているのか、どこにいるのか、もうわかりませんでした。ただ、気持ちはずかしく、血の付いたくちばしは、少し開いて笑っているように見えました。それからしばらくたって、よだかは目を開けました。そして、自分の体が、青く美しく光っているのを見ました。たくさん青くて白い星が周りにありました。よだかの星は光

り続けました。いつまでもいつまでも、光り続けました。
今でもまだ、光っています。



げんさくしゃ
●原作者

みやざわ けんじ
宮沢 賢治 (1896-1933)

* * *

いわて けんう しじん さつ か ちゅうもん おお りょうりてん かぜ またさぶろう
岩手県生まれの詩人・作家。『注文の多い料理店』『風の又三郎』
ゆきわた り ぐすこーぶどりでんき ぎんがてつどう よる たすう
『雪渡り』『グスコーブドリの伝記』『銀河鉄道の夜』など多数
どうわ か ちしつがくしゃ きょういくしゃ けんじ
の童話を書きました。地質学者であり、教育者でもあった賢治
は、のうそん せいかつ かいぜん ゆうめい ねんかん
農村の生活の改善につとめたことでも有名です。37年間の
みじか しょうがい どうぶつ し ぜん だいざい けんじ し どうわ
短い生涯でしたが、動物や自然を題材とした賢治の詩と童話
は、おとな こ あい
大人にも子どもにも愛されています。

がくしゅうしゃ

学習者のみなさんへ

- たのしみながらたくさん読むと、にほんご しぜん み れが多読です。「にほんご多読ブックス」は、多読のための読みものです。わからない言葉があっても絵を見たり、先を読めばわかるように作られています。言葉や文法は気にしないでください。内容を楽しみましょう。
- どんなレベルの人でも、レベル 0 から読んでみましょう。母語に訳さないで、日本語のまま、すらすら読むことが大切です。
- おんせい き よ き よ とくに、読むスピードが遅くなったと感じたときや難しいと感じたとき、「聞き読み」してみると効果があります。日本語の音に慣れることも大切です。
- 「にほんご多読ブックス」だけではなく、日本人向けの絵本、漫画、アニメブックスなどもどんどん読みましょう。「日本語多読に適した市販本や参考図書」のリストを参考にしてください。
→ http://tadoku.org/learners/book_ja/reference
- ほん かんそう おく 本の感想をぜひ送ってください。
あてさき たげん ご たどく 宛先：NPO多言語多読 (tadokubooks@tadoku.org)

[監修者紹介]

NPO 多言語多読 (エヌピーオー たげんごたどく)

2002年に日本語教師有志が「日本語多読研究会」を設立し、日本語学習者のための多読用読みものの作成を開始した。2012年「NPO 多言語多読」と名称を変更し、日本語だけでなく、英語、韓国語など、外国語を身につけたい人や、それを指導する人たちに「多読」を提案し、支援を続けている。<http://tadoku.org/>

主な監修書：『レベル別日本語多読ライブラリー にほんご よむよむ文庫』レベル0、1、2、3、それぞれ vol. 1～3、レベル4 vol. 1～2、『日本語教師のための多読授業入門』（ともにアスク出版）

* この本を朗読した音声は、NPO 多言語多読のウェブサイトからダウンロードできます。http://tadoku.org/learners/book_ja/mp3downloads

〈にほんご多読^{たどく}ボックス〉vol. 3-1

よだかの星^{ほし}

© NPO Tadoku Supporters, 2015

NDC817/17p/21cm

電子書籍版——2015年12月1日

監修者——NPO 多言語多読^{たげんごたどく}

発行者——鈴木一行

発行所——株式会社 大修館書店

〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1

電話 03-3868-2651(販売部) 03-3868-2290(編集部)

振替 00190-7-40504

[出版情報] <http://www.taishukan.co.jp>

表紙組版——明昌堂

制作所——壮光舎印刷

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製・配信は著作権法上での例外を除き禁じられています。



ろうどくおんせい あんない

朗読音声のご案内

この本を朗読した音声は、NPO多言語多読のウェブサイトから
ダウンロードできます。

▶ http://tadoku.org/learners/book_ja/mp3downloads

〈にほんご多読ボックス〉 レベル/語数/文法のめやす

	JLPT	語数	1話あたりの 字数	主な文法事項
0 入門	N5	350	～ 400	現在形, 過去形, 疑問詞, ～たい など (基本的に「です・ます体」)
1 初級前半		350	400～1,500	
2 初級後半	N4	500	1,500 ～ 3,000	辞書形, て形, ない形, た形, 連体修飾, ～と(条件), ～から(理由), ～なる, ～のだ, など
3 初中級	N3	800	2,500 ～ 6,000	可能形, 命令形, 受身形, 意向形, ～とき, から, たら・ば・なら, ～そう(様態), ～よう(推量・比喩), 複合動詞 など
4 中級	N2	1,300	5,000 ～ 15,000	使役形, 使役受身形, ～そう(伝聞), ～らしい, ～はず, ～もの, ～ようにする／なる, ことにする／なる など
5 中上級		2,000	8,000 ～ 25,000	機能語・複合語・慣用表現・敬語など 例) ～につれて, ～わけにはいかない, 切り開く／召し上がる, 伺う

JLPT

日本語能力試験(JLPT)のレベルについては、「日本語能力試験公式ウェブサイト」の
「N1～N5: 認定の目安」(<http://www.jlpt.jp/about/levelsummary.html>)を参考にしました。

ふりがな(ルビ)のふり方

レベル0～2…すべての漢字とカタカナ／レベル3, 4…すべての漢字／

レベル5…小学校三年生以上で習う漢字

EBSCOhost®

ほんしょ ねん はっこう たどくぶっくす
本書は、2014～2015年に発行された「にほんご多読ブックス」
しりーず たげんご たどく かんしゅう はっこう ふくせい りぶりん
シリーズ（NPO多言語多読 監修・発行）の複製（リプリン
と ばん
ト）版です。

よだかの星^{ほし}

よだかは醜^{みにく}い鳥^{とり}で、他の鳥^{ほか}たちから悪口^{わるぐち}を言^いわれます。

ある日^ひ、鷹^{たか}が「たか」の名^な前^{まえ}を使^{つか}うな、と言^いいます。

すると、よだかは…。宮沢賢治^{みやざわけんじ}の童話^{どうわ}。

The Star of the Night Hawk

Night Hawk has always been bullied by other birds because of his ugliness. One day, Hawk demands that Night Hawk not use “hawk” in his name. There is nothing he can do but...

By Miyaszawa Kenji, a 20th-century author.



0	入門	Starter
1	初級前半	Beginner
2	初級後半	Elementary
3	初中級	Pre-Intermediate
4	中級	Intermediate
5	中上級	Pre-Advanced

vol. 3-1